

「年表」で見る鶴町の生い立ち

平成17年3月31日

年 代			町 の 変 遷	主 な 出 来 事 (教育・文化・スポーツ活動)	
西暦	和暦	経過			
1603 ↓ 1610	江戸時代	395	<p>昔、大阪湾へ注ぐ淀川の本流や支流の河口付近には、川が運んできた土砂が堆積して、難波の「八十島」と称せられるほど大小の島や砂洲がつくられていた。</p> <p>江戸初期の慶長15年(1610)とも正保4年(1647)ともいわれ、その年代はさだかではないが、木津村(現在の浪速区敷津辺)の中村勘助という人が、木津川河口にあった島の一つである姫島で開墾を行った。これが大正区における新田開発の始まりであった。</p> <p>最初に姫島を開いた人が勘助であったので、この島を勘助島と呼んだ。</p> <p>この勘助島へ、難波村の漁夫助右衛門ほか2名が住み着いて漁業を生業として暮らすようになった。島には、彼等の住んでいる三軒の家しかなかったのが、三軒家村の地名の由来になったといわれている。</p> <p>勘助の開いた三軒家村新田が大正区の新田開発の中で一番古く、江戸初期の新田として、三軒家地子新田と難波島地子新田があるだけであったが、江戸中期になって新たに泉尾・炭屋・千島・今本・岩崎・平尾・中口・上田・南恩加島・北恩加島・小林・千歳の十三か所の新田が開発された。</p> <p>やがて、年を経るにつれ大正区の地域が形づくられて行くことになった。</p>		
1615 ↓ 1624		390 ↓ 381			
1698		307			
1875	明治8	130		大阪府西成郡に所属	<p>1月 千島新田に初めて千島小学校が開設された</p> <p>4月 泉尾新田に泉尾小学校が開設された(現在の泉尾小学校)</p> <p>7月 三軒家町に三軒家小学校が開設された(現在の三軒家小学校)</p>
		9			
		10			
		11			
		12			
1880	明治13	125		<p>当時の大正区は、まだ西成郡に属し、人家はわずかしがなく、澄み切った空の下に、青々とした田圃がどこまでも続き、その果てに、白い波の打ち寄せる大阪湾があった。</p> <p>(鶴町・福町・船町もまだ海の底であった)</p>	
		14			
		15			
1883		122		<p>6月15日「大阪紡績会社(現東洋紡績)」が、三軒家村に建てられ、工場が操業を始めた。</p>	

これまでの紡績工場というと、いずれも官営で、2000鍾ぐらいの小規模のものに限られていたが、この工場は10,500鍾のイギリス製紡績機を備え、動力に蒸気機関を用いたのが国初の株式会社経営による大規模紡績工場であった。

田圃地帯のなかにぽつん建った赤レンガの煙突や三階建ての工場は、晴れた日などは随分遠くから望むことができたであろう。後になって深夜業も始められ、日が暮れると、自家発電による電灯が一斉にともされ、木津川河畔に忽然として不夜城が出現した。

大阪紡績会社は、操業してから業績が非常に好調であったので、これに刺激されて、天満紡績、浪華紡績、平野紡績など大規模な紡績工場が次々と設立され、紡績が一躍近代工業の花形となり、やがて大阪が日本の紡績業の中心地として「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになった。

1885	17	121
	明治18	120
	19	119
	20	119

4月 藤永田造船所が三軒家、難波地区に造られた
(炭屋新田にできる)

「藤永田造船所(現三井造船)」が、三軒家の南、川南村に移転し、新しい造船所が建設された

その後、藤永田造船所は、南の木津川河口に移転したが、これがきっかけとなり木津川沿岸には、大小の造船所が進出した。やがて大正・昭和にかけ藤永田造船所で数多くの駆逐艦等が建造され出航前の勇姿を大阪港内で鶴町の浜辺から望見された。

	21	117
	22	116
1890	明治23	115
	24	114
	25	113
	26	112
	27	111
1895	明治28	110
	29	109
	30	108
	31	107
	32	106
1900	明治33	105
	34	104

市制・町村制度が施行され大阪市が発足。当地区は三軒家村と川南村の一部に分けられる。

4月 「日清戦争」起こる

4月1日 大阪市西区に編入

木津川と尻無川に生まれた地域は海であったが、江戸初期から新田開発とその後の埋立てにより陸地になり、最初は、西成郡に属していたが、大阪市第一次市域拡張で、大阪市に合併され西区に編入された。

10月17日 **築港工事** がはじめられた。(2,250万円の膨大な事業費が見込まれた)

外国貿易港として近代大阪港の建設がはじめられた。安治川尻右岸と、木津川尻右岸の両方から沖合に向かって二本の防波堤を築き、防波堤で囲んだ海域約5,750,000平方mを水深8.5mまで浚渫し、その浚渫土砂を用いて約4,900,000平方mの埋立地の造成が行われた。

	35	103		
	36	102		
	37	101	2月	「日露戦争」が起こる
1905	明船38	100		
	39	99		
	40	98		
	41	97		
	42	96		
1910	明船43	95		
	44	94		
	明船45	93		
	大正2	92		
	3	91		
1915	大正4	90		大正橋がかけられた。
	5	89		3月21日 本津川運河が完成した

これらの運河や水路は、水運としてだけでなく、その一部は土地会社所有の広い堀割とともに貯木場としても活用され、大正初年以降小林町、千島町付近には、西長堀などから木材業者が移転日本一の木材の町として繁盛した。

	6	88		
	7	87		10月26日 市電松島南恩加島線のうち大正橋と本津川運河の間が開通した
	8	86		大正区の沖合には新しい埋立地が生まれ、鶴島町・福町・船合町などの町名がつけられた。

地名の由来

				6月 1日 大阪市営住宅が鶴町1丁目に建設された (191戸)
				8月 共同宿泊所が鶴町1丁目に建設された
				8月 福町堀が開削された
				7月11日 公立「鶴町第一託児所」が大阪市で初めて設けられた。
1920	大正9	85		3月 1日 大阪市営住宅が鶴町3、4丁目に建設された (851戸)

住宅団地として発足した鶴町は、住人全員が他所から来たものであり、知らない土地で暮らす心細さから、隣近所の付き合いは大層親密であった。そうしたことから、町内では年に一二回運動会といって、奈良や伊勢などへ旅行に行き、お互いの親睦を高めていた。

向こう三軒、両隣の仲の良さは、長く伝えられる土壌はその頃からあったと言われている。

10	84	4月 1日 鶴町尋常小学校が開校した（泉尾第二小学校から分離した、児童数599名） 7月 鶴町公設市場が開設された
11	83	5月13日 松島南恩加島線のうち小林町—新千歳—鶴町—大運橋通が開通し、。 （小林橋・千歳橋・大運橋が架けられた）
12	82	大正区と浪速区を結ぶ橋として「大浪橋」が架けられた。 4月21日 市電の車庫が鶴町に造られ開通路線も三系統の電車が運行された。 ① 梅之町天満橋行（鶴町—天満橋—玉造） ② 榊橋玉造行（鶴町—玉造—阿倍野橋） ③ 上本町六丁目行（鶴町—上本町六丁目） 5月 大正運河が完成した
13	81	8月 「神明神社」が東区内平野町から鶴町一丁目に奉遷された
1925 大正 14	80	4月1日 大阪市の第二次市域拡張で港区に編入された。（4区から13区へ）
15 昭和	79	4月 鶴町尋常高等小学校と改称され高等科が併設された 4月10日 福町（現鶴町五丁目）に電気局の福町車両工場が開設された。

鶴町三丁目や電車通りには一応、家が並んでいたが、その周辺は空き地ばかりであった。

当時の日本は第一次世界大戦後の不景気が続き失業者が町にあふれる状況であったが、鶴町では、外国航路の船員が盛んに上陸し、市電や工場に勤務する人などでやがて活況を呈するようになり次第になり町としての形づくられるようになりました。

それから国や市のほうで、何かめでたいことがあると、福町車両工場で飾り付けされた花電車が鶴町車庫を起点に出ていく姿は、町の人々の目を随分楽しませていた。また、暑い夏の日中など、軌道を市電の散水車、車道を大きな水槽を積んだ大八車が、水を撒いている風景は、のどかで幾分でも涼感を味わうことができた。

そしてまた、鶴町の夜は非常に静かであった。夜が更けると、市電の運転回数もめっきり少なく

なり、ボォーという船の汽笛だけが、もの悲しく聞こえていた。

その頃町には、水銀灯や蛍光灯のような街路照明もなく、明かりと言えば人家からわずかに漏れてくる裸電球の淡い光があるのみで、町は、すっかり夜の闇の中に沈んでいた。そんな中電車通や新道筋では、商店やカフェなどの照明で、その一角だけは明るさがあった。そして時折り市電の青白いスパークが、町の家々を闇の中から浮かび上がらせていた。

2 78

鶴町一丁目に「鶴町遊園地」が大正区で初めて造られた

神明神社の裏手につくられた公園は、樹木に囲まれた広い公園で、子供だけでなく大人まで、鉄棒やブランコで遊んでいた。神明神社から道をへだてた西側には、ゼネラルモーターの工場と、市電の車庫があり、工場の広場には沢山の自動車が並べられ、市電の車庫では、重い電車が、転車台に載って、何本もの線路を移動していた。

3 77
4 76

3月15日 金融恐慌で全国の銀行で取り付け騒ぎがり、鶴町三丁目の角にあった「大阪貯蓄銀行」の前にも預金者が大勢押し掛けて騒然とした。

11月28日 三軒家一泉尾梅之町3丁目ー新千歳町が開通し、大正区を一巡する交通網ができた

11月10日 「御大典」の奉祝ムードで鶴町から花電車が出た
4月 本津川飛行場が船町に開設された。

当時、飛行機が大変珍しかったので、町の人々は、わざわざ渡し舟に乗って幅80メートルの本津川運河を渡り、旅客機の飛び立つのを見物に行っていた。飛行機は遊覧飛行客を乗せ大阪市内の上空を一周していた。飛行料（1周5分間位）は、1回回るのが55円、当時会社勤めをして1ヶ月30円そこらであった。

やがて、周辺に煙突の林立で、滑走路は余り使われなくなり水上飛行機が活躍するようになった。飛行場の沖合に浮かんだ複葉単発で二つのフロート（下駄履き）をつけた飛行機が、海面を滑るように走りやがて離水大空へ飛び立つ姿を眺めたり、着水し飛行場へと帰っていく勇姿をしばしば眺め、感動したが、船舶の横行でその勇姿を見る機会が無くなり、その後、閉鎖された。

1930 昭和5 75

4月 大阪市営バス野田阪神＝鶴町間新設された区内で初めての市バス運行である

5月 鶴町小学校創立10周年の式典が挙行された

8月25日 中央气象台大阪支台が鶴町海岸に設けられた

鶴町海岸には縦横に、広い道路が通じていたが、付近には人家もなく、ほとんどが雑草に被われた空き地で、海岸沿いの空き地に背丈ほど伸びた雑草の向こうに風変わりな建物が建てられ、入口に「中央气象台大阪支台」と書いた看板がかけられていた。

6 74 9月

「満州事変」が始まる

7 | 73 | 10月1日 港区から分離独立、大阪市「大正区」となった。

(13区から15区になった)

鶴町では初夏から秋にかけて夜店が出ていた。一日は、二丁目の電車通りで、六の日は三丁目の中通であった。

日が暮れて、裸電球の光が明るさを増す頃になると、どこからともなく人が集まり、アセチレンガスや、焼き鳥など雑多な匂いがあたりに漂い、夜おそくまで大勢の人で賑わった。

これらの人は、夕涼みがてらブラリと出てくるのが多く、どれも団扇を手にした浴衣がけで、カランコロンと下駄の音を響かせながらやつて来た。

夜店には、いろんな屋台が並んでいたが、なかでも人気があったのは、「アイスクリーム」や「冷やしあめ」、「お好み焼き」などで、バナナの叩き売りや、「一口寿司」の屋台の前には多くの人が集まっていた。

「一口寿司」というのは、普通の寿司の半分ぐらいの大きさで、値段も巻き寿司が一本十銭、にぎり一個五銭ぐらいであったように思う。

「冷やしあめ」を売っていたのは、タオルで鉢巻きをした中年の男性で、一抱えもあるような大きい氷を台の上のせ、氷の凹みに沢山の瓶を並べ、それを手のひらで絶えず回しながら、

「ひやっこい ひやっこい 冷やしあめ」

と、大きな声をあげてお客を呼んでいた。値段は確か一本五銭で、町内の店ではコルクの栓をした瓶に入って、小瓶が一銭、大瓶が二銭で売っていたので、夜店のほうが台分値段が高かった。それでも暑い夏の夜、冷たい瓶で握った時の感触は何とも言えないものであった。

また、「お好み焼き」は、値段が一銭から二十銭まで、一銭刻みにあり、十銭と十一銭のものでどこがどう違うのか私にはさっぱりわからなかった。

夜店の真ん中あたりでは、一張羅の背広を着た年配の薬売りが、竹の棒の先で盛んに人体模型を示しながら、

「通行中の諸君、これを聞いて帰らないと大変なことになるよ」

と、大勢の客を集め、独特の口調で、一生懸命、薬の効能を説明していた。

場末の少し暗くなったところでは、植木屋が、沢山の盆栽や、苗木を並べて売っていた。

夜店の雑踏と喧噪は、鶴町になくはならない夜の風物詩であった。

8

9

71

9月21日 超大型台風「室戸台風」が襲来し、鶴町は大きな被害を受けた。

目がさめると、空はどんよりと曇っていたが、雨はまだ降っておらず、いつものように静かで平和な朝が鶴町に訪れていた。

しかし、空を低くおおっている黒い雲が、早い速度で移動しているのが、何か、険悪なものを感じさせ、それが嵐の前触れと気付くには、あまり時間を要しなかった。

午前七時前後から急に風が強くなり、あれよあれよという間に、ますます激しくなり、午前八時過ぎには最高潮に達した。

異様なうなり声をあげて吹きあれる風に、家は、今にも倒れんばかりに、激しく大揺れに揺れ、屋根瓦や、看板などが、まるで広告ビラかチラシのように高く舞上がり、地上に向かって叩きつけられるように激しく落下した。とても危険で、外へ出られるものではなく、じっと家の中で様子を

1935

昭和10

70

10月 鶴町商業青年学校が鶴町小学校に付設された

11

69

当時の物価

昭和10年頃の物価をあげてみると、白米が一升三十銭ほど、醤油（1，8リットル）一本五十銭、鶏卵一個五銭、豆腐一丁五銭、アンパンやクリームパン、ジャムパンが一個五銭、渦巻きパン（味付けパン）が一個二銭で、十銭出すと六個もくれた。

飲み物では、牛乳（一合）一本七銭、コーヒー牛乳とラムネが、一本五銭、サイダー一本十七銭、ピール（大瓶）三十四銭、日本酒（上等酒一升瓶）一本一円九十銭などである。

菓子類では、グリコと新高ドロップが一個五銭、明治や森永キャラメルの大箱が十銭、小箱が五銭、板チョコは、大きいのが十銭、小さいのが五銭、鶴町二丁目の泉尾餅で買くと、一個二銭のものが五銭で三個、十銭で六個貰え、車庫前の浜田で売っていた今川焼きも、同じように十銭で六個貰えた。

私は、読書が好きであったので、私や子供の雑誌などを車庫前の書店までよく買いに行った。

当時、潭海が、三十銭、婦人倶楽部や、キング、日の出、幼年倶楽部、少年倶楽部など、五十銭、のらくろや、冒険ダン吉の漫画の単行本が一円であった。

そのほか家に風呂がなかったので、二丁目か三丁目の銭湯までいった。入浴料は確か大人が六銭であったように思う。また子供を散髪屋で丸刈にすると、二十銭かかった。

肝心なのを忘れていたが、当時、町の人々の足になっていた市電は、どこまで乗っても六銭であった、朝早く乗ると早朝割引があって片道五銭、往復切符を買くと九銭であった。この早朝割引の時間は1月から10月までは、始発から午前七時まで、11月から2月までは始発から午前七時半までとなっていた。

また、円タクと呼ばれていた大阪のタクシーは、昭和九年二月から、全国で初めてのメーター制を導入し、初めての二キロマデ三十銭、八百メートル増すごとに十銭が加算された。

その頃、大阪駅から鶴町二丁目の家まで乗ると、一円四、五十銭かかった。

12

68

4月 鶴浜通二丁目に分校校舎が完成した

7月7日 「日中戦争」が始まる。

戦争の影響は次第に町へも及び、毎日のように若い青年たちが、町内の人々におくられて、神明神社に参拝し、市電に乗って出征して行った。そして大阪では、7月26日から29日まで、防空演習に引き続いて、灯火管制が行われ、四日間というものは鶴町に暗い夜が訪れた。

この時、八年後に、空襲で、鶴町が焦土と化すなどは誰ひとり想像するものはいなかった。

13

67

11月 新千歳小学校が開設され鶴町小学校より一部転校児童がいた。

14

66

3月1日 大阪陸軍兵器支廠禁野火薬庫で爆発事故があり3日3晩も続き、鶴町から北東の空を眺めると

黒煙が盛んに立ちのぼりみんなを驚かせた。

大阪湾に紛れこんだ「鯨」が、大運橋のもとに陸上げされ一般に公開された小学生ながら、テントの下に横たわる鯨の大きさに驚かされ、初めて見る鯨が細い目から白い涙を流しているのが印象的で可愛そうに思えた。

当時二頭の鯨が大阪湾に入り、尻無川から福町堀に迷い込んだものの内一頭が、陸上げされたとの話を後から聞くことができた。この二頭の鯨も一週間ほど生きていたが、その後どうなったか、わからない。

1940 昭和15 65

16 64

17 63

18 62

19 61

4月1日 小学校が国民学校と改称された

12月8日 「太平洋戦争」が始まる

9月 学童疎開が進められ鶴町国民学校の3年～6年までの学童238人徳島県名西郡石井町、浦庄村、藍畑村、高原村、高志村集団疎開した

1945 昭和20 60

1月20日 鶴町の北東の方角で大きな爆発音があった
千島町付近の木津川岩壁に停泊していた輸送船「金星丸」に積んであった爆雷が爆発し、大きな被害が出たとのことであった

3月13日 B29、約290機から投下された焼夷弾によって市街中心部は焦土と化した。幸い鶴町3丁目の一部が被災した。

6月1日 白昼、来襲したB29、約450機が、油脂焼夷弾を投下、船町の西半分、鶴町、福町の全域が大きな被害を受け廃墟と化した。
鶴町国民学校も焼失した

8月15日 太平洋戦争終結 終戦を迎える

21 59

22 58

23 57

24 56

4月 空襲で本校・分校とも全焼休校となり、北恩加島小学校に統合される。

10月 焼失した「神明神社」が鶴町二丁目に再建された

4月 大阪市立鶴町小学校として再開校される
(児童数275名)